

地域交流ラポ
日本大学危機管理学部

私たち日本大学危機管理学部山下ゼミは、2025年度「地域交流ラポ」を通じて太子堂地区の防災課題の研究に取り組んできました。

まず、研究テーマを決めるにあたって、工藤会長をはじめ太子堂一丁目町会の方々へのインタビューの機会をいただきました。皆さんは地域でどんな防災活動が行われているかご存じでしょうか。防災訓練、太子堂地区防災マップの配布などいろいろな活動が行われています。



勿論そんなことは知っているという方もおられると思いますが、インタビューでは、太子堂地区に訓練などの防災イベントへの参加をどう増やしていくかという課題があることを知りました。

そこで私たちは防災イベントの参加をどうすれば増やせるのかという研究課題を掲げることにしました。

はじめは全ての世代での参加を増やすことを考えていましたが、年代ごとに様々な要因が考えられることに気づき、実際に災害が発生した時に地域のリーダーシップを担える四十〜五十代のいわゆる中年層と呼ばれている方々にアプローチをかけることにしました。

中年層の方々が参加しやすいイベントとはどういったものなのか。

これだという答えは存在しないものだと思いますが、太子堂地区の防災訓練、防災塾に参加し、まち歩きやグループワークで様々な方の意見をいただくことで、参加のしやすさが重要だということに気づき、生活の中での危険を見つけられるようなイベントが効果的であると考えました。

そうしたイベントに参加が増えれば、地域活性化にも繋がると考えます。皆さん防災イベントにぜひご参加ください。

太子堂の皆様、まちづくりセンターの皆様、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



地域交流ラポ

昭和女子大学

私たち昭和女子大学の学生は、昨年引き続き、世田谷地域「地域交流ラポ」で、池尻・太子堂地区について活動させていただきました。

一年間を通して「都市における伝統文化コミュニティ」をテーマとして活動し、地域のイベントの見学や地域の方々との交流を行いました。





活動の中で特に印象的だったものは、太子堂ふれあいまつりを見学させていただいたことです。太子堂ふれあいまつりは、主に高学年の小学生たちによって踊り手が構成されており、地域における子どもたちの活躍や賑わいを感じられました。

また、飲食の無料券を配布することで子どもたちが金銭面を気にせず楽しめる工夫がされていることにも驚かされました。子どもたちを喜ばせたい地域の大人たちが協力し、子どもたちの成長を支援することで次の地域の担い手を育成することにつながっていると身に染みて感じました。

その見学を踏まえて、私たちは太子堂まちづくりセンターの田中陽子係長に太子堂ふれあいまつりと太子堂地区に関してヒアリングを行いました。そのヒアリング内で太子堂地区の課題として「新たな地域コミュニティを創設する際に、PTAへの所属を経由する場合が多く、PTAに所属していない人や子どもいない家庭の人の地域コミュニティへの参加ハードルが高い」「地域コミュニティ・各組織は、身内など地域に根付いた、人間関係で構成されていることが多く新たな若者や住民はあまりいない」といった点に気付きました。

こういった一年間の活動を通して、私たちは「PTAに入っていない保護者や子どもいない家庭の方などは地域コミュニティに参加しづらい状況があるのではないか」という課題点を見出しました。加えて、そういった背景にある原因として、「地域コミュニティ・各組織は身内などの近い人間関係で構成されていることが多く、参加へのハードルが高いと感じるから」「地域内の目やトラブルを恐れ、一回入ったらやめられなくなる可能性を感じているから」という2つの仮説を立てました。

そして、こういった課題と仮説を踏まえ、私たちは現在の自治会や町内会といった従来の地縁組織に加え、引越してきたばかりの人や一人暮らしの方でも入りやすく、都合が悪くなった場合は抜けやすいような、「ゆるい繋がり」で形成される組織が必要なのではないかと考えました。

来年度以降は、太子堂の伝統行事やイベントに参加している児童・生徒、町内会の方や地域コミュニティの専門家などの意見を聞いてみることで、仮説の検証や「ゆるい繋がり」の実現に向けたアイデアの検討を行っていきたいと考えております。

これらの活動の成果を、2月11日に国士舘大学で行われた成果報告会にて、世田谷地域の町会関係者の方々へ発表させていただきました。他の大学の発表を聞いてテーマはそれぞれ違えど、校外の方々の貴重な意見を頂けて、大変勉強になりました。今年度の活動及び報告会での経験を今後の活動に活かしていきたいです。



くらしの「気になること」。
一緒に考えます。
太子堂まちづくりセンター
所長 石塚和人

太子堂地区では、太子堂まちづくりセンター、太子堂あんしんすこやかセンター、世田谷区社会福祉協議会太子堂地区事務局の三者で連携して、「福祉の相談窓口」を開いています。さて「福祉の相談窓口」はどんなところなのでしょう。それは…。相談というほどではないけれど、ちょっと気になることがある。そんなときに気軽に立ち寄れる窓口なので

す。
くらし・介護・地域のことを、窓口で話しながら一緒に考えます。困りごとがなくても「情報を知りたい」だけでも大丈夫。地域活動に参加したい方の支援も行っています。大きな公園や児童館がない太子堂地区のため、池尻児童館と四者で連携し、三茶そとあそび実行委員会を立ち上げ、子どもがのびのび遊べる場を定期的

わが町の文化財

佐藤 竹男

私が生れ育った太子堂の氏神様は、太子堂八幡神社である。その八幡様の祭礼は、毎年十月第二週の土曜日と日曜日に行なわれる。

この神社周辺には、昔からいくつかの部落があり、私達の村落は大塚と呼ばれてきた。各々に神輿がある中で、大塚の神輿は評判がよかった。昭和初期、行徳の後藤直光の作品である。戦後一度修復したが、それ以降は、気に掛けながらも、手入れらしい手入れもせず、放置の状態であった。

今年一月、会長の音頭とりで、素性の立派な神輿を何とかしようと修復委員会が発足した。何回も会合を重ね、ようやく全会員から募金をつくる段階にこぎつけた。

先祖が残した文化財修復の為とはいえ、不景気風ふく中で、懐が火の車とあっては、とても大金など出せる道理などない。

子々孫々の代まで伝えたい素晴らしい神輿だからと説明し、募金をお願いして回った。

会長と修復委員長及び役員の方々の熱意と努力が実り、支払いの目処がついた。

六月末、業者に引渡した。

十月二日、晴天がありがたい。朝、まばゆいばかりに光り輝いた神輿が戻ってきた。何か大きくなった様に見える。

十月十三日の本祭りの当日は、これ以上はない好い天気にも恵まれた。

会長以下役員連が胸をはり先頭をいく。その後を大勢の担ぎ手達が威勢よく掛声をかけ、神輿を上下にゆらして進む。

折から西日に神輿が黄金色に輝き、まことに神々しいばかり。

「まあ素晴らしい、木彫細工もきれいな。」

人混みの中から感嘆の声があがった。シャッターをおす人も立ち止まっていた。

突然、空から白いオヒネリが一つ舞いおりてきた。一瞬の出来事に群衆はどよめいた。

日曜日の歩行者天国、茶沢通り、今日は神輿天国と変ってしまった。

(二〇〇二・一一)

(平成18年2月発行)

TUESDAY第12号より掲載



STOP! 住宅火災 ~住宅防火10の心得~

令和7年中(12月5日現在)、東京消防庁管内の住宅火災は1800件(速報値)でした。住宅火災による死者の7割は高齢者となっており、主な出火原因は「たばこ・ストーブ・こんろ・コード」です。まずは火災を起こさないことが大切です!

<p>1 調理中は、こんろから離れないようにしましょう。</p>	<p>2 寝たばこ、絶対にやめましょう。</p>	<p>3 ストーブの周りに、物を置かないようにしましょう。</p>	<p>4 家の周りを整理整頓しましょう。</p>	<p>5 ライターやマッチを子どもの手の届く場所に置かないようにしましょう。</p>
<p>6 コンセントの掃除を心掛けましょう。</p>	<p>7 住宅用火災警報器を全ての居室・台所・階段に設置し、定期的な作動確認をしましょう。</p>	<p>8 寝具類やエプロン・カーテンなどは、防災品にしましょう。</p>	<p>9 万が一に備え、消火器を設置し使い方を覚えましょう。</p>	<p>10 ご近所同士で声をかけあい火の用心に心掛けましょう。</p>

住宅対象侵入窃盗

住宅対象侵入窃盗とは、戸建て住宅や共同住宅を狙う「空き巣」「忍込み」「居空き」のことをいいます。



【手口の特徴】

東京都での住宅対象侵入窃盗の各手口が占める割合は、前年と比べて大きな変化はありませんが、依然として、家人が留守の間に侵入し、金品を窃取する「空き巣」の被害が一番多く、79%を占めています。

次いで、夜間、家人が就寝中、侵入して金品を窃取する「忍込み」が15%、家人が在宅し、昼寝や食事等をしている隙に侵入し、金品を窃取する「居空き」が6%となっています。

【侵入口の特徴】

出入口から侵入された被害が全体の55%で、窓から侵入された被害が44%を占めています。

【場所の特徴】

住宅対象侵入窃盗の場所別割合は、一戸建住宅と中高層住宅で、全体の73%を占めます。

【侵入手段の特徴】

無締り箇所から侵入された被害が最も多く、全体の47%を占めており、次いで、ガラスを破って侵入された被害が27%となっています。

【防犯対策】

- ・短時間の外出（ゴミ出しや買い物）でも、必ず戸締りをする。
- ・自宅の鍵は、郵便受けや植木鉢の下などに隠さず、必ず持ち歩く。
- ・死角になる場所に人の動きを感知してライトが点灯するセンサー付きライトを設置する。
- ・玄関ドアをツーロックにする。
- ・窓ガラスに防犯フィルムを貼付する。
- ・窓枠に補助錠を取り付けるなどして、建物開口部の防犯性を高める。
- ・旅行先でリアルタイムでSNSにアップして自宅が留守なことを世間に知らせない。

【編集長の独り言】

このミニコミ紙を作り始めて、もうずいぶん時間がたちました。毎号、原稿を集めたり、写真をお願いしたり、レイアウトを考えたりと、なかなか思うように進まないこともありま。特に締め切りが近づくと、「今月はどうしようかな」と頭を抱えることもしばしばです。

それでも、不思議なもので、発行して皆さんの手に届いたあと、「読んでよ」「あの記事、懐かしかったよ」「次も楽しみにしてるね」と声をかけていただく、やっぱり作ってよかったなと思います。たった一言でも、編集に関わっている者にとっては何よりの励みになります。

町内の出来事というのは、大きなニュースになることは少ないかもしれませんが、よく見てみると、小さな変化があったり、新しいお店ができた、子どもたちの元気な声が聞こえたりと、たくさんの出来事が詰まっています。そうした日常のひとコマを記録しておくことも、このミニコミ紙の役目なのかもしれません。



最近「昔はこうだったよ」というお話を聞く機会も増えました。今では当たり前になつていいる道路や建物も、昔は田んぼだったとか、子どもたちが空き地で野球をしていたとか、そんな話を聞くと、この町の長い時間の流れを感じます。できることなら、そうした思い出や小さなお話を、これからも少しずつ残していけたらいいなと思っています。

これからも肩ひじ張らず、町の空気をそのまま紙面にのせるような気持ちで、このミニコミ紙を続けていけたらと思っています。もし身近な話題や懐かしい思い出がありましたら、ぜひ編集部までお知らせください。皆さんの一言が、次の紙面の大切な一行になるかもしれません。